

先端技術・福祉用具合同フォーラム2024

入門編

「移動」手段を再考する

大会長 小原謙一
(川崎医療福祉大学)

6.23日
9:30 - 15:00

✓ セミナー番号：124920

✓ 目標参加数：300名

✓ 会場：オンライン開催

✓ 参加費 専門会員A・B：1000円

一般会員・理学療法協会員・他職種：2000円

理学療法士で非協会員：5000円

✓ 申し込み期限：口座振替 2024年5月13日

✓ クレジットカード 2024年6月16日

✓ オンデマンド配信あり

詳細はこちら

<https://www.jptsat.jspt.or.jp/convention/convention-957/>

QRコード



教育講演

ロボットを活用した歩行再建の理論と最近の知見

講師 田辺 茂雄
藤田医科大学

後藤 豪志
藤田医科大学病院

井元 大介
藤田医科大学病院

司会 遠藤 正英
桜十字福岡病院

シンポジウム1

『移動』手段としての歩行を再建するロボットの適応を再考する

シンポジスト 俵 紘志
福山市民病院

山田 健太
岡山リハビリテーション病院

司会 吉田 耕治
川崎医科大学附属病院

シンポジウム2

地域における『移動』手段としての車椅子を再考する

シンポジスト 古田 大樹
鹿教湯三才山
リハビリテーションセンター

浅見 正人
日本保健医療大学

司会 森田 智之
神奈川県総合
リハビリテーションセンター

日本支援工学理学療法学会

先端技術・福祉用具 合同フォーラム 2024の概要

理学療法士として、対象者の移動の確立は至上命題の一つです。移動手段の一つとして歩行の再建を目指すのは当然であり、そのためのロボット技術の発展は目覚ましいものがあります。それでも歩行獲得に至らない人に対して、移動手段として車椅子を適切なタイミングで提案できなければ、その対象者の生活範囲は、ベッド周囲だけの狭い世界で留まってしまうかもしれません。対象者の能力を見極め、戦略的に移動手段を選択できる能力が理学療法士には求められますが、この見極め、そしてそのための基準は、30年前から変化しているのでしょうか。

以上のような思いから、本フォーラムを企画いたしました。本フォーラムが、ご参加いただいた方々の移動手段の戦略的選択を適切に行うための一助となれば幸いです。フォーラム長：小原謙一

教育講演：ロボットを活用した歩行再建の理論と最近の知見

「リハビリテーションロボットの分類と近年の潮流」

田辺 茂雄 先生 藤田医科大学

「脊髄損傷者における歩行自立支援ロボットの活用」

後藤 豪志 先生 藤田医科大学病院

「脳卒中片麻痺者における歩行練習支援ロボットの活用」

井元 大介 先生 藤田医科大学病院

司会：遠藤 正英 先生（桜十字福岡病院）

ロボがない施設でも応用できる考え方は？

教育講演では、田辺先生から、近年、開発・製品化・社会実装が進んでいるリハビリテーションロボットの目的と現状について概説していただきます。続いて、後藤先生からはWearable Power-Assist Locomotor (WPAL) の具体的な活用法と効果について、井元先生からはWelwalkを用いた効果的な歩行練習法について、それぞれの考え方や最新の知見を交えて解説していただきます。

シンポジウム1：『移動』手段としての歩行を再建するロボットの適応を再考する

「Hybrid Assistive Limb (HAL) で支える、人の移動とQuality of Life」

俵 紘志 先生 福山市民病院

「Welwalkの適応を使用経験から再考する-Robot Assisted Gait Trainingの展望への期待とそれに関わるセラピストのupdate-」

山田 健太 先生 岡山リハビリテーション病院

司会：吉田 耕治 先生（川崎医科大学附属病院）

HALとWelwalkの効果とそれらの使い分けは？

シンポジウム1では、WelwalkやHALのようなロボット技術を用いた歩行再建に焦点を当て、俵先生と山田先生に臨床での実際の実用例をご紹介いただき、その経験から、適応と可能性を探ります。さらに、臨床の場においてその両方を使用し始めている吉田先生の司会によって、使用者の視点からの率直な疑問を交えて議論を深めていただきます。

シンポジウム2：地域における『移動』手段としての車椅子を再考する

「在宅における自走型車椅子の活用」

古田 大樹 先生 鹿教湯三才山リハビリテーションセンター

「電動車椅子（ジョイスティック型・ハンドル型）の運転技能と評価」

浅見 正人 先生 日本保健医療大学

司会：森田 智之 先生（神奈川県総合
リハビリテーションセンター）

車椅子を提案する際に着目すべき点は？

シンポジウム2では、移動手段としての自走型車椅子と電車椅子に着目し、地域における介護者と利用者の両方にとっての活用方法について議論していきます。古田先生からは自走型車椅子の効率的な使用方法や在宅での活用事例をご紹介いただきます。浅見先生からは電動車椅子に必要な運転技能と評価についてご紹介いただきます。